



2022年(令和4年) 7月15日

第74号

発行



〒660-0051

尼崎市東七松町1丁目2-21

TEL06-6480-5845/FAX 06-6480-5846

E-mail: ikuseiama123@gmail.com

http://www.ikusei-ama.com/

アフターコロナの 育成会活動



思い起こしますと、育成会の活動拠点が現在の東七松町に移ったのは、コロナ禍のさなかでした。「会員の誰もが利用できる、みんなの建物にしよう」と建設されたまんまるはうすですが、感染拡大と収束の波に翻弄され、集まることが憚られるはがゆい日々が続きました。しかし、ようやく私たちの活動も元通りに進みつつあります。2年にわたるコロナ対応への慣れ、ウィルスの弱毒化等による収束の兆しがこれからの見通しを明るくしています。

さてそのような中、今熱くなってきているのが「Aプロジェクト委員会」です。10年前に発足した委員会ですが、現在も、子どもの年齢別に3つのチームに分かれ、それぞれのステージで問題となるテーマを持ち寄って話し合っています。

学齢期のチームⅠは、親同士の交流、情報交換。今年はみんなの知りたいこと、やりたいことのニーズ調査ののち、放課後等デイサービスの選び方などについての座談会が企画されています。そして啓発事業として、知的・発達障害の疑似体験ワークショップを行っています。今年度は兵庫県警察学校から出前授業のご依頼をいただいています。警察官の卵でいらっしゃる生徒のみなさんに、外からはわかりにくい知的・発達障害について理解を深めていただき、心のバリアフリーを広める有意義な機会にしたいと思います。

チームⅡは、いつ起こるか誰にも分からない、災害時の備えについて話し合っています。毎年のように起こる地震や豪雨などの自然災害。被災時には子どもたちをどう支えるのか、支えてもらうために何を準備するのか。行政の危機管理課や福祉課のみなさんと協力し、話し合っています。要援護者避難計画を作成するためのフォーマットについても意見を

一般社団法人 尼崎市手をつなぐ育成会
会長 鳥居祐紀

求められており、ハザードマップを見ながら、実際に書いてみて、よりよい避難計画を策定できるよう進めています。そして万が一、会員の皆様のご自宅が被災された場合、まんまるはうすを避難所として活用できるように話し合いを何度も重ねています。

そしてチームⅢは、主に親子の高齢化や権利擁護について、必要な支援を検討しています。

サポート度の高い、いわゆる重度障害を抱える方が安心して親元を離れることが困難な中、「親が元気なうちは・・・」とぎりぎりまで同居する高齢の親にとって、最も負担が大きい入浴をどう支えるのか。そして、グループホーム等で生活をしている子どもたちが、爪や髪型などの身だしなみを毎日整えてもらっているか、寝具や服装は季節やTPOに応じたものに取り換えてもらっているか等の不安に対して、「親目線で言う【当たり前の生活】」を、どう担保するのかについても話し合われています。さらに、全会員に向け「日常生活アンケート」を取り、今何に困っているかを可視化、結果から読み取れる問題の分析を行いました。育成会ならではの踏み込んだ質問に対する回答群は、これからの本人主体の生活をどのようにアシストするのかを考える、良いきっかけになることでしょう。

Aプロジェクト委員会のこれらの活動は、尼崎の育成会がこれから取り組むべき課題や進むべき道を示しています。各チームの皆さんには、あらためて感謝と敬意を表します。

関係各位の皆さま方におかれましては、引き続き当会活動にご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

(令和3年度決算総会挨拶より抜粋)



就任のご挨拶

兵庫県立阪神特別支援学校

校長 小俣 千智

はじめまして、この4月に、県立阪神特別支援学校に着任しました小俣と申します。

本校は、西宮市の北東部に位置しており、東には武庫川が流れ、西には、六甲山系を仰ぎ見ることができます。

知的障害のある子どもたちを対象とした学校です。地域の皆様のご努力により、兵庫県で2番目に、尼崎市立尼崎第二養護学校として、昭和40年5月1日に開校しました。その後、昭和47年4月1日に、阪神養護学校組合立阪神養護学校となり、昭和50年1月1日に県立移管され、今年度、創立58年目を迎える歴史と伝統のある学校です。

平成27年度に、共生社会の実現に向け、県立武庫荘総合高校内に開設された分教室も、今年で8年目を迎えました。社会自立、職業自立をめざし、高等学校との交流及び共同学習や地域住民との交流を進めるとともに、ものづくりやビルクリーニング（清掃）、喫茶サービス（接客）、パソコン（事務補助）等、年々取り組みの充実を図っています。

また、令和4（2022）年4月現在の児童生徒数は、小学部102名、中学部100名、高等部119名、訪問学級3名、分教室44名、合計368名です。通学区域

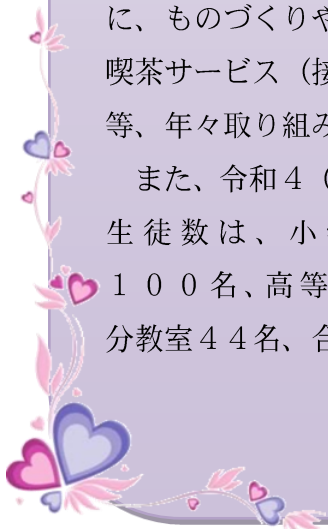
を、尼崎市全域と学校の南にある「ななくさ学園」とし、一部自力通学生を除き、8台のスクールバスで登校しています。

本校の校訓は、「明るく たくましく 心ゆたかに 活気ある学校」です。

学校教育目標は「児童生徒一人一人が、自立と社会参加をめざし、主体的に行動する力を身につけられるよう必要な知識・技能・態度及び習慣を養う」ことです。

この2年あまり、世界中で新型コロナウイルス感染症の影響による活動制限が続いています。この状況下において、従来の考え方ではなく、いかに柔軟な発想で、弾力的に対応するか、智恵を出し合うことが求められています。本校においても、感染拡大防止対策の継続とICT機器等を活用した工夫ある教育活動の両立を進め、信頼される学校、地域とともに歩む学校をめざします。

今後とも、尼崎市手をつなぐ育成会をはじめ、皆様におかれましては、学校、家庭、関係機関や地域等との切れ目ない支援について、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。





就任のご挨拶

あこや学園

園長 高橋 真奈美

今年4月に、尼崎市立あこや学園の園長に就任しました、高橋真奈美でございます。

平素から、あこや学園の療育に、ご理解、ご協力を賜り、ありがとうございます。

私は、平成13年から今年の3月まで、尼崎市立たじかの園に勤務し、肢体不自由児の療育に携わってきました。

あこや学園に着任した当初は、元気いっぱい活動的な子ども達のスピードにとまどうこともありました。しかし、子どもたちと一緒に遊び過ごす時間が増えた今、支援を必要とするところは異なりますが、こどもの成長に必要なこと、発達支援の本質は同じだということを実感しています。

尼崎市の「就学前の子どもの教育・保育についての考え方」にあるように、あこや学園で過ごす時期は、これからの成長の基礎となる大切な時期です。この時期、子どもたちが、生活、遊び、人とのかかわりを通して、いろいろな経験・体験を積み重ねられるように、そして、それらの経験・体験が将来への力となるよう支援していくことが、我々の務めです。

しかし、我々の力だけでは不十分です。あこや学園の名前の由来である、あこや貝が真珠を育てるように、保護者と職員と一緒に子どもたちを育てること、そして、そのあこや貝が育つきれいな海、すなわち多様性が尊重される地域社会が揃ってこそ、子どもたちの輝きは増していくものだと思います。

児童発達支援センターは、地域の中核的な療育施設として、高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能、地域のインクルージョン推進の中核的な機能等が求められています。あこや学園は、児童発達支援センターとして、一層の発達支援、家族支援、地域支援の充実に努めると共に、地域に開かれた施設として多くの発信をし、子どもたちを育てるご家族、地域社会、我々の輪を、大きく強くできるよう努めてまいります。

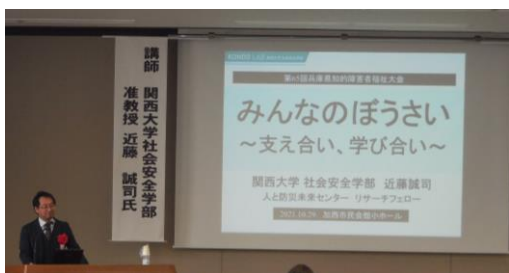
今後とも手をつなぐ育成会のお力添えを頂きますよう、お願い申し上げます。



第65回兵庫県知的障害者福祉大会（加西市）＜ハイブリット形式＞

「巨大災害に備える～知的障害のある人のいのちを守る～」

～最悪の事態に備える～知的障害のある人の心構えと情報提供・避難支援のあり方～



リアルタイムで各地区に配信

日時 令和3年10月29日（金）10：30～12：30

場所 尼崎市立小田南生涯学習プラザ

講師 関西大学社会安全学部 准教授 近藤 誠司 氏

兵庫県知的障害者福祉大会は、メイン会場の加西市から各市町へ、オンラインでライブ配信されました。例年通りの大会さながら、来賓祝辞や理事長表彰、感謝状の贈呈など、臨場感あられる式典が行われました。後半は近藤先生の講

演「巨大災害に備える～知的障害のある人のいのちを守る～」を受講しました。講演の中で、尼崎の育成会の活動が、「笑顔で楽しく取り組んでいる好事例」として大きく取り上げられており、とてもうれしく思いました。

また、今回のテーマである「災害に備える」ためにも、後日備蓄品として活用できるアルファ化米やスープの防災食を会員に配布しました。



オンラインによる感謝状の贈呈

尼崎市心身障害児者父母連合会 主催「父と母の学校」

「尼崎の歴史」～市になったころの歴史を中心に～

日時 令和3年11月2日（金）10：30～12：00

場所 尼崎市立中央北生涯学習プラザ

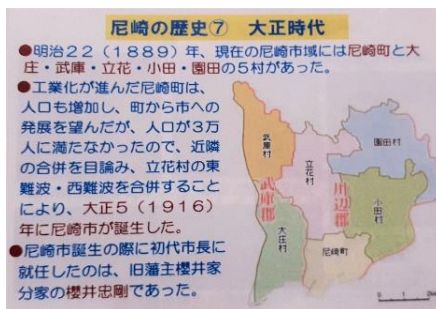
講師 尼崎市立歴史博物館 学芸員 桃谷 和則 氏



海で働く人（あま）が住む岬（崎）という意味の港町としての尼崎の誕生から、尼崎城が築かれる江戸時代～尼崎紡績から工業都市として発展する明治時代、そして大正5（1916）年に尼崎町と大庄、武庫、立花、小田、園田の5村が合併して尼崎市が誕生。初代市長は旧藩主分家の櫻井忠剛（ただたか）であったこと。また、昭和戦前の田園都市を標榜した立花駅を中心とする住宅整備の話など現在の特色を持った背景を分かりやすくお話頂きました。参加者からもとても楽しかったと好評で尼崎のことがもっと知りたくなる講習会でした。



講演会の様子



♥尼崎市の成り立ちと時代背景♥

Aプロジェクト委員会報告

チームⅠ

令和3年度 活動報告

●啓発キャラバン隊 オンライン研修会

知的・発達障害を持つ当事者の困り感を感じ取ってもらうために結成されたキャラバン隊。依頼が激減した昨年度は、ステップアップの機会ととらえ、勉強会に集中しました。

令和4年度 活動予定

●障害疑似体験ワークショップ「まんまるはーと」再始動！

結成8年目の啓発キャラバン隊・まんまるはーと。今年度は、兵庫県警察学校で訓練中の“警察官の卵”である皆さんへの講義を。またさらに、市内小学校の現役教員の先生方に向けて、ワークショップと子育て体験談をお話する予定です。そして尼崎市のイベント「みんなのサマーセミナー」にもセンセイとして参加します。皆さんにお伝えしたいことはたくさんありますが、受講者に合わせて内容をアレンジし、最大限に共感していただけるよう努めていきたいと思ひます。

●子育てカフェ…学校の進路選びのことや、これからの子育てのこと、身近なテーマに沿ってざっくばらんに話せるカフェを再開します。



チームⅡ

令和3年度活動報告

●ネットスーパーの情報(イオン、ダイエー、コープこうべ等)を一覧にし土と芽だより 138号で配布

令和4年度活動予定

●まんまるはうすを避難スペースとして使用できるよう検討中

- ①地震等の災害時の受け入れの利用基準について
- ②対応人数・部屋 1F…10名、2F…4~5名、3F…3~4名 ※約20名(5家族くらい)
- ③必要物品について … 食料や災害時用トイレ、モバイル用発電機など

●福祉避難所や指定避難所の福祉スペースについて

⇒ 尼崎市へ学校の教室利用やコロナ禍でのゾーン分けについて提案

●尼崎市が作成中の要援護者を対象とした「個別避難計画」について

⇒ チームⅡのメンバーがモニターになり記入し、その後会員に普及させます。



チームⅢ

令和3年度活動報告 ⇒ 令和4年度第1回地区懇談会で活動報告と今後の活動を発表

- ①選挙での合理的配慮 ②預かりファイル⇒R4年度から
- ③グループホーム訪問(まんまる訪問) ⇒R4年度から
- ④高齢者施設での入浴支援可能事業所一覧作成(土と芽だより 139号に掲載)
- ⑤日常生活アンケート結果報告(P6~P7参照)



令和4年度活動予定

●預かりファイル

・サポートファイルを事務所での預かりを希望する方に対し、チームⅢメンバーが担当になりフォローします。

●GHへの訪問(まんまる訪問)

・チームⅢのメンバーが2人1組になり、親目線での見守りをするための確認リストを作成し会員が利用しているGHを訪問します。

日常生活アンケート結果



今年の2月から3月にかけて日常生活の困りごとについてのアンケートを実施しました。

会員 394 名に配布し、回答数は 136 件、回収率は約 34.5% でした。

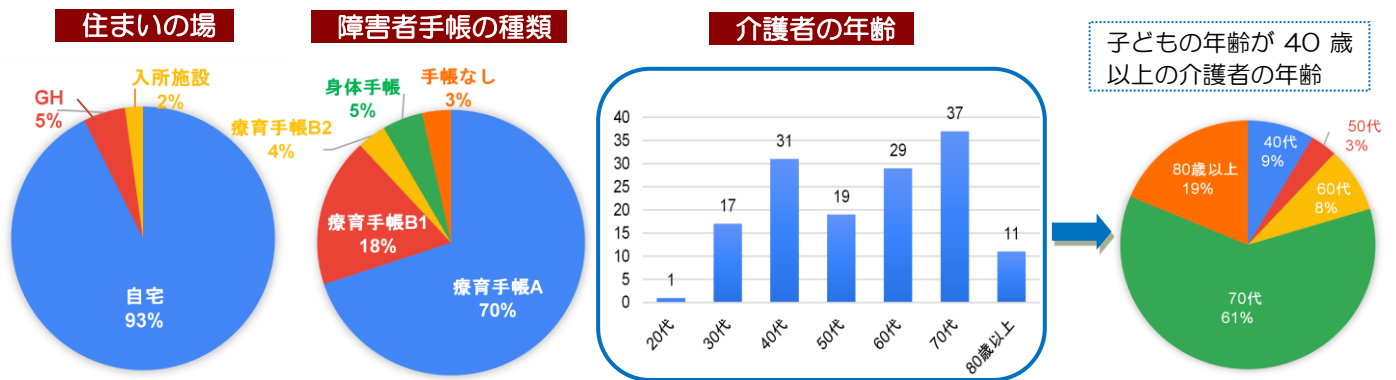
アンケートを実施した期間がオミクロン株の流行期に重なり各家族会など対面での依頼ができなかったことが影響し、回収率が 35% と期待よりは少なかったのですが、それでも一定の傾向をつかむことができました。

今後は、アンケート結果を基に行政への要望や会活動に反映していきたいと思っています。

なお、詳しいアンケート結果については次ページの QR コードでご確認できますのでご覧ください。

(1) 基本情報

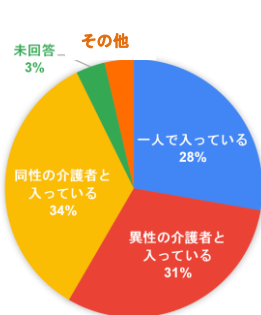
グループホーム・入所施設などを利用している方は 1 割足らずでした。療育手帳 A 判定が 7 割、卒業後は生活介護事業所利用が約 7 割、18 歳以上で支援区分 4 以上は 7 割、子どもの年齢を 40 歳以上に限れば介護者の年齢は 70 代以上が 8 割になっています。このことから高齢になっても支援度の高い子どもと自宅で暮らしている様子が伺えます。



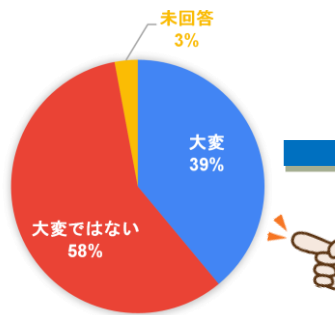
(2) 日常生活の困りごと

- 学校や事業所について急を要する困りごと多くはないように見受けられましたが、すぐにでもグループホームを利用したいが空きがないとの回答もありました。また、学校・事業所に通えないという方も少数ながらもいました。
- 食事についての困りごとの中では、偏食・過食が約半数を占め、かまずに食べるという回答もあり、栄養指導や食事のマナーについての研修を実施したいと思います。
- 余暇活動については、本人自ら何らかの趣味をもって楽しむというのができない人も多く、また、コロナ禍においては外出の機会が減少し、小さいうちから準備することで大人になってからの余暇の過ごし方が変わるものと思われます。
- 毎日の生活に欠かせない入浴についての回答は下記のグラフの通りですが、18 歳以上に限定すると単独で入浴している人は約 4 割、介護者と入浴している人が約 6 割あることから保護者が高齢になっても子どもと一緒に入浴している様子が伺えます。

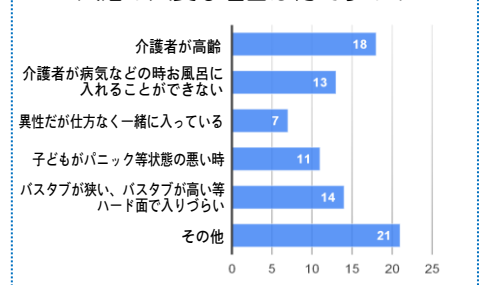
誰と入浴していますか？



毎日の入浴は大変ですか？



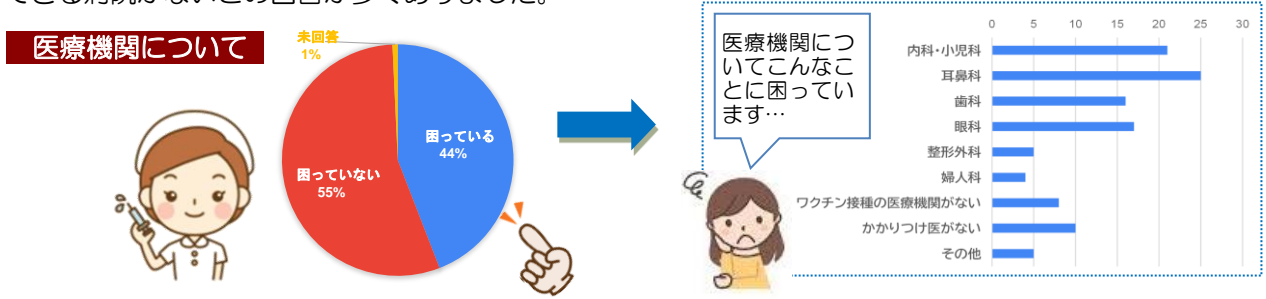
入浴が大変な理由は何ですか？



全体では、4 割の方が毎日の入浴が大変だと感じ、特に介護者の高齢化や病気の時など介護をする人が一緒に入浴できない時やハード面でも困り感が大きく、またその他の回答では具体的な事例が多くありました。



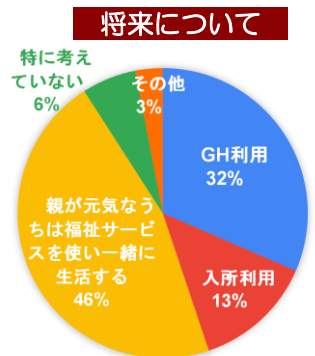
- 医療機関についての困りごとでは、コロナ禍では医療機関との関係の重要性を更に痛感し、ワクチン接種に関しかかりつけ医がなく接種に困り、かかりつけ医があっても接種を実施していない病院もありワクチン接種に関しては困った人が多数いました。また、かかりつけ医があってもなくても専門診療については、受診できる病院がないとの回答が多くありました。



- その他として、行動障害や相談機関について不安を持つ人も一定数いることから、身近なところでの相談機関があれば安心につながります。また、利用している事業所にいつまで通えるのかという不安があることから事業所との密な連絡も必要です。

(3)将来について

全世代で親が元気なうちは福祉サービスを使いながら一緒に生活するという回答が多く、本人年齢を40歳以上に限定すればグループホーム利用30%に次いで入所施設利用希望が24%でした。このことから、出来る限り一緒に生活し、どうしても親が介護できなくなればグループホームまたは入所施設を希望している人が多くいました。



(4)今後の活動

行政への提言

- 行動障害・高齢化に対応したグループホームの整備
- 困りごとへのワンストップ相談所
- 医療機関の整備(かかりつけ医の設置制度創設)
- 知的障害のある人の在宅支援の充実
(入浴や自宅での見守りなど日々の生活の丁寧な支援計画)

育成会の活動

- 食事、睡眠などについての研修会
- グループホーム利用者への訪問(親目線での見守り)
- 障害についての学習会



左の QR コードからアンケートの詳細をご覧ください



令和3年度 要望書

令和3年度尼崎市へ下記の要望書を提出しました

1. 尼崎市内に複合施設の建設
 - ・高齢化、医療的ケアに対応し、ショートステイや相談支援を併設した施設
 - ・共生型サービスの推進
 - ・福祉支援員の人材育成
 - ・強度行動障害の研修会の開催
 - ・緊急時のショートステイの受け入れ体制の確立(児童・成人)
 - ・高齢になった知的障害者の受け入れ先の確保
 - ・日中一時支援事業所の充実
1. 知的障害児に対するインクルーシブ教育の推進
 - ・共生社会の実現に向けて知的、発達障害の疑似体験等による障害理解の促進を図る
 - ・入学時には全ての子どもを地域の学校で受け入れ可能に

1. 知的障害児に対する教育効果が高まるような方策を
 - ・タブレット端末をコミュニケーションツールやスキルアップにつながるよう積極的に活用し、学校による格差をなくすためにも好事例の共有
 - ・児童発達支援・放課後等デイサービス連絡協議会の設置及び教育、家庭との連携
1. 公共機関に特例子会社のような部署を設置
1. 災害時・コロナウイルス感染時における知的障害児・者への適切な対応
 - ・避難先の充実(ホテル等の活用)
 - ・自宅避難時の支援の方法
1. 相談支援体制の充実
 - ・災害時個別支援計画を併せて作成
1. 移動支援先での地域拠点作り
1. 阪神特別支援学校を市内に移転
1. 母子健康手帳にサポートファイル機能をもつページを増刷

新理事紹介



〈あこや学園〉

梶本智子

よろしくお願ひします

おめでとうございます!!

兵庫県社会福祉大会知事表彰
「知的障害者就労表彰者」

松原 優介 様 (中央地区)

令和3年度賛助会員

昨年度から賛助金の形を変え広く会員の皆さんや一般の方に呼び掛けることになりました。初めての試みでしたが、個人・団体合わせて86名、204口、合計204,000円のご協力を得ることができました。(1口1,000円)

たくさんの皆様にご賛同頂きましたことに深く感謝申し上げます、下記に賛同いただいた方のお名前を掲載しお礼に代えさせていただきます。誠に有難うございました。

賛助金については会の活性化に向け有意義に活用させていただきますので、今後とも引き続きご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。

(敬称略・順不同)

相木 力子	井上 義夫	鴨谷 富美子	白間 一雄	田原 武雄	樋口 雄次	宮北 二郎	
阿部 裕子	岩川きよみ	川瀬 順子	新本 清美	近友 和美	福島 忠	宮城美津子	
嵐 俊明	岩永 ゆかり	川口 直子	末広 忠美	戸田 稔	福満 久晃	宮下 哲	
有本 元一	上田 久恵	川畑 勇	杉本美智子	鳥居 祐紀	藤村 秀雄	村中 安子	
石井 克子	梅本千鶴子	小坂 奈美	杉浦 裕子	中川 佳代	別宮 固夫	森 康祐	
石川 昇	浦山 正清	小寺 輝久	瀬田 幸子	西村 清美	前川 浩二	山川 敏彦	
伊瀬 弘隆	岡本 陽子	佐々木正紀	征矢美香子	祢宜 隆重	前田知津子	山本 千里	
出 竹男	柏原 敏昭	実藤 節子	田口 一吉	橋本 裕子	松本 浩子	山中美智子	
伊東 繁夫	勝 忠徳	沢田 道代	田中 敏久	浜田 絹子	松原 雄二	山元 拓馬	
伊藤 茂雄	加藤 智子	霜竹 利嗣	田中 栄治	濱地 智子	丸鋸 政氏	山畑 佳子	
井上 憲英	加藤 泰子	嶋内 良則	田中 文子	早瀬 裕子	南 友久	吉岡かほる	
井上三枝子	鎌倉 稔勝	白石 幸代	田中 宣江	原田真由美	<input type="checkbox"/> 座番号：00930-6-243120(ゆうちょ) <input type="checkbox"/> 座名義人：一般社団法人尼崎市手をつなぐ育成会 賛助会費：一口1,000円		
放課後サービス桜の木	キッズプレイスとんぼ						
NPO法人サニーサイド	NPO法人ピースヘルプ協会						

賛助会費お申込み

編集後記

昨年もなかなか活動が難しかった分、コロナとの共存も見えだした今年は気をつけながら頑張っていることと役員の中でも気持ちが高ぶっている今日この頃です。

今回はAプロジェクトチームⅢの方々がたくさん行動、発信して頂きました。皆さんもアンケートなどご協力ありがとうございました。

最後になりましたが、原稿をお寄せくださいました皆様ありがとうございました。